

熊取町第4次生涯学習推進計画〔改訂版〕

令和5年2月

熊取町教育委員会

熊取町第4次生涯学習推進計画 計画目次

第1章 計画の見直しにあたって

- I. 生涯学習推進計画見直しの趣旨 . . . P. 2
 - 1. 生涯学習とは
 - 2. 生涯学習を取り巻く社会や環境の変化

- II. 計画の概要 . . . P. 5
 - 1. 計画の位置づけ
 - 2. 計画の期間

- III. 計画の見直し経過 . . . P. 7

第2章 計画の見直し方針

- I. 熊取町の生涯学習における現状と課題 . . . P. 8
 - 1. 生涯学習関連施設の現状 ～利用者数～
 - 2. 生涯学習に関するアンケート調査の結果から見えた現状
 - 3. 5年間（平成30年度から令和4年度）の主な取組み
 - 4. アンケート結果及びこれまでの取組みを踏まえた今後の課題

- II. 今後取り組むべき重点目標 . . . P. 13
 - 1. 課題解決に向けた今後取り組むべき重点目標

- III. 熊取町第4次生涯学習推進計画における個別施策の位置づけ . . . P. 14

第3章 基本計画

- I. 学習機会の提供 . . . P. 15

- II. 学習環境の整備 . . . P. 25

- III. 自主活動の支援 . . . P. 32

- IV. 地域連携の推進 . . . P. 37

- V. 推進体制の整備 . . . P. 41

第1章 計画の見直しにあたって

I. 生涯学習推進計画見直しの趣旨

平成29年度に「熊取町第4次生涯学習推進計画」（計画期間：平成30年度から令和9年度）を策定し、本計画に基づいて、皆さまとともに学び、手を取り合い、「仲間といきいき活動し、みんなが健康で心豊かに暮らせるまち 熊取」の実現に取り組んできました。

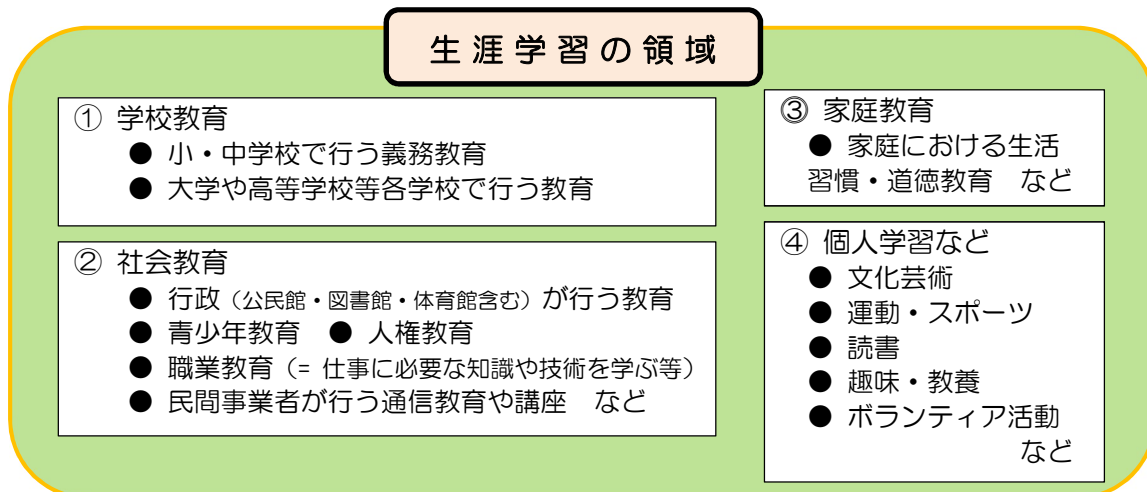
このたび、計画策定から5年を経過することから、生涯学習を取り巻く社会環境の変化や人生100年時代の到来を見据えた、生涯にわたり学び続け、活躍できる環境づくりに対応する必要があることから、今後5年間の本町生涯学習施策を計画的に推進するため、中間見直しを行い、現行計画を改訂します。

1. 生涯学習とは

生涯学習とは、一人ひとりが自分の人生を豊かにすることができるよう、自分に適した手段や方法で、生涯にわたり自発的に行う学習活動であり、文化芸術、運動・スポーツ、趣味やレクリエーション活動、ボランティア活動など、その内容は幅広い分野に及びます。

また、学校教育はもちろん、社会教育や家庭教育などの義務教育以外の教育のほか、個人の自由な意思に基づく学習なども含んでいます。生涯学習を行う際の活動形態は、個人や団体に所属し行う活動、主催者として企画から行うもの、鑑賞、観戦など様々な活動を想定しています。

なお、本計画は、社会教育施設等を中心に展開される学習活動に主眼を置くため、生涯学習の領域から「義務教育を除いた部分」をその範囲とし、熊取町のすべての住民の方を対象に展開します。



2. 生涯学習を取り巻く社会や環境の変化

(1) 人口減少と少子高齢化の進展

わが国の人口は、平成20年（2008年）をピークに減少に転じたと言われており、人口減少社会に突入しました。継続する少子高齢化は、15歳から65歳までの生産年齢人口の大幅な減少や単身世帯の増加をもたらすと予測されています。本町では、平成27年国勢調査で初めて人口減少に転じました。また、地域コミュニティ団体については、令和元年度に婦人会の解散があり、また、子ども会も加入団体数が減少しているところです。地域社会における人々のつながりを再構築していくためには、住民主体の社会教育の新たな振興が求められます。社会情勢や生涯学習を取り巻く環境の変化、人生100年時代の到来を踏まえ、生涯にわたり学び続け、活躍できる環境づくりに対応する必要があります。

(2) ICTの発展をはじめとする社会の変化

ICT（情報通信技術）の発展をはじめとする社会の変化の速度が増しており、社会の様々な分野に影響を与えています。パソコン、スマートフォン等の情報通信機器を個人が所有するのが当たり前の時代となり、膨大な情報を適切に活用する力は、年齢を問わず必要となっています。AI（人工知能）やビッグデータ※の活用が進むことで、将来的には産業構造にも大きな変化をもたらされることが予測されており、生涯にわたって学び続けることが仕事や生活においても求められる時代となっています。

そのため、社会教育施設におけるICT環境の整備と魅力的な事業の創出が求められます。

※ビッグデータ：情報通信技術の進展により、生成・収集・蓄積等が可能・容易となる多種多量のデータ。スマートフォン等を通じた位置情報やインターネットやテレビでの視聴等小型化したセンサー等から得られる膨大なデータ等

(3) 新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響

令和元年（2019年）度末頃からの新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）が猛威を振るい、私たちの生活に大きな影響を与えています。本町においても感染拡大に伴う公共施設の利用制限や講座・イベント・グループ活動等の自粛や縮小を余儀なくされ、住民の生涯学習活動を大きく制限するものとなりました。今後も感染リスクを考慮しながら、Withコロナ、アフターコロナの時代に向けて、生涯学習や文化・スポーツ活動のあり方を模索していくことが求められます。

新型コロナが社会に与えた影響により、他者との接触機会を減らすため、ICTを活用したオンライン学習機会の提供や文化財等の資料についても誰もが気軽に情報が入手・活用できるよう、資料のデジタル化など、新しい学習形態への移行が進みました。一方で、情報通信機器の利用における格差問題も指摘されるようになっており、誰もが生涯学習活動に参加できる環境づくりに向け、新しい取組みを検討していくことが求められます。

(4) 生涯学習をめぐる国際的な動向

1970年代にOECD（経済協力開発機構）がリカレント教育※という考えを採用し、「リカレント教育—生涯学習のための戦略—」報告書を公表したことで広く認知されるようになり、社会人となった後も自分の趣味や仕事に必要な知識を学ぶことが一般的となりました。

また、国際連合においては、開発分野における国際社会の共通の課題である持続可能な開発の推進に向け、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、令和12年（2030年）までに持続可能で、よりよい世界を目指す国際目標としてSDGs※を定めています。

SDGsの第4のゴールは「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。」となっており、生涯学習の促進が達成されるべき課題として位置づけられており、地球上誰一人取り残されないことまたそれ以外のゴールについても、その達成に生涯学習の取組みが重要な課題となるものが多く含まれています。

また、教育面においても、ESD「持続可能な開発のための教育」があり、持続可能な社会を実現していくことを目指し、学習・教育活動に取り組んでいく必要があります。

※リカレント教育：リカレントとは「繰り返す」「循環する」という意味で、リカレント教育とは、学校教育からいったん離れて社会に出た後もそれぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すことです。社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶため「社会人の学び直し」とも呼ばれています。

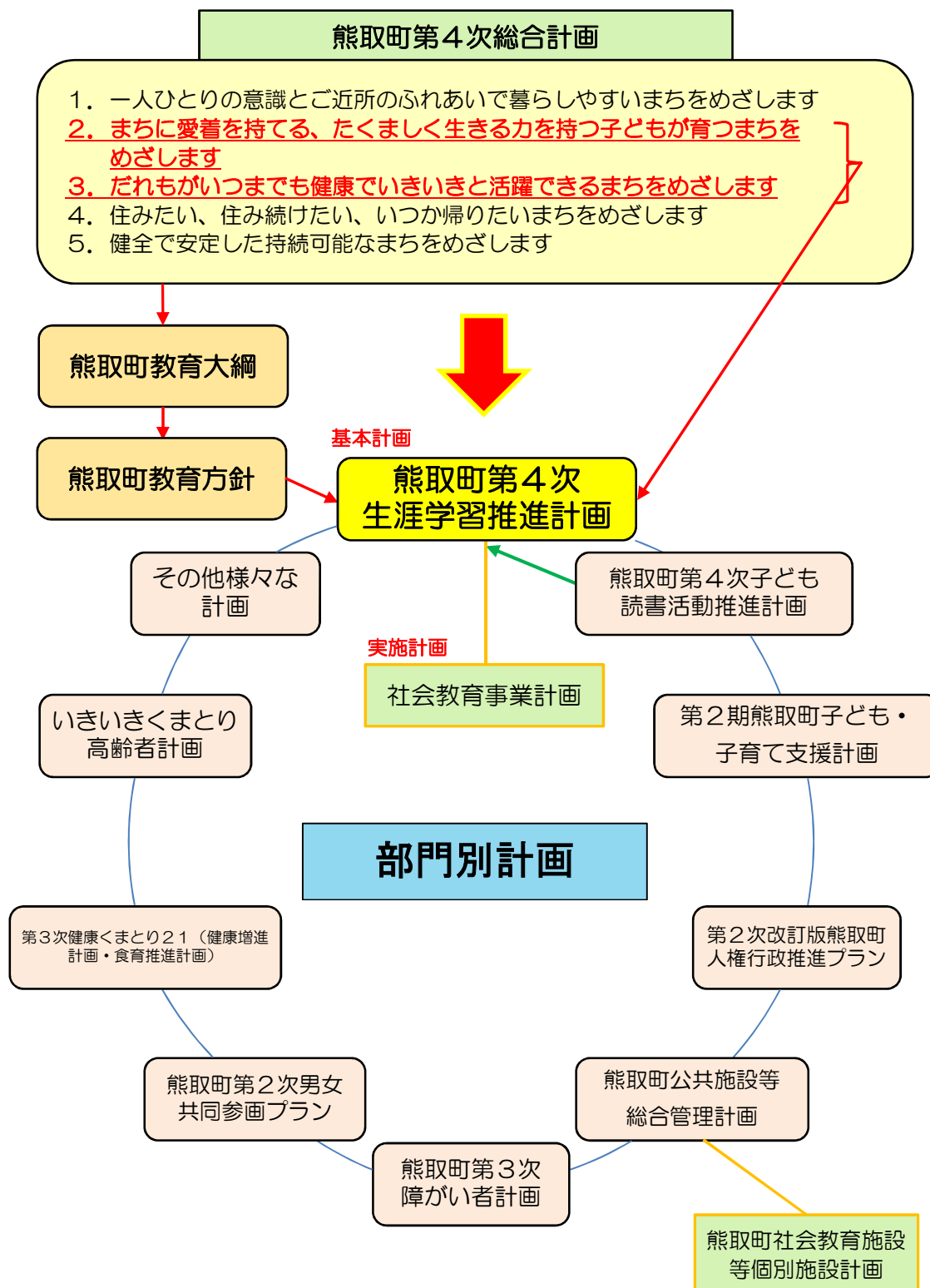
※SDGs：持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標 17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っています。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



II. 計画の概要

1. 計画の位置づけ

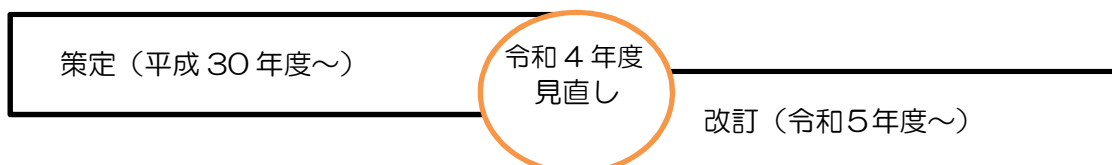
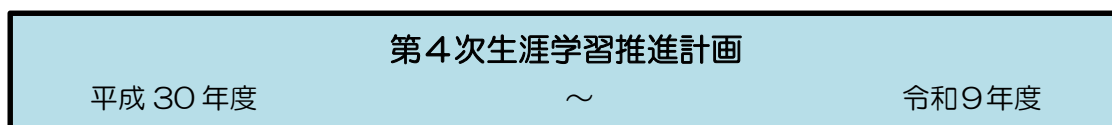
本計画は、熊取町第4次総合計画及び熊取町教育大綱などの流れを受けて、本町における生涯学習を推進するための基本的な計画として位置づけます。



2. 計画の期間

本計画の計画期間は平成30年度から令和9年度の10年間とし、計画策定から5年後を「中間見直しの年」として定め、令和4年度に、各施策の実施状況やニーズを把握・確認し、必要に応じて見直しを行いました。

見直し後の改訂版の計画期間は、令和5年度から令和9年度の5年間とします。



Ⅲ. 計画の見直し経過

● 生涯学習に関するアンケート調査

本計画の見直しにあたり、生涯学習に関する学習・活動への取組み状況や動機などについてアンケート調査を実施し、住民の生涯学習に対する意識や今後のニーズを確認しました。

【アンケート調査の概要】

調査対象：町内在住の18歳以上85歳以下の男女
 抽出方法：住民基本台帳より無作為に抽出を行った1,000人
 調査期間：令和4年6月16日(木)～7月4日(月)
 調査方法：郵便配付・郵送回収

配付数	回収数	回収率
1,000	369	36.9%

● 社会教育委員会議における議論

社会教育委員会議において、本計画についての意見交換及び審議を行いました。
 会議回数：4回

● 図書館協議会における議論

図書館協議会において、本計画について意見交換を行いました。
 会議等回数：2回

● パブリックコメントの実施

幅広く住民などから意見を聴取し、本計画へと反映させるためにパブリックコメントを実施しました。



第2章 計画の見直し方針

I. 熊取町の生涯学習における現状と課題

1. 生涯学習関連施設の現状 ～利用者数～

生涯学習関連施設については、令和元～3年度に新型コロナ感染防止対策により臨時休館※や活動自粛、イベントや講座の中止などを行ったため、利用者数等は次のとおりの推移となりました。

公民館等

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
公民館・町民会館	66,656	51,292	19,540	26,703
町民会館分館	8,849	—	—	—
教育・子どもセンター	8,444	15,816	10,785	9,723
煉瓦館	57,823	58,122	22,930	27,519
中家住宅	1,735	—	2,437	1,849

公民館・町民会館、煉瓦館においては、令和2、3年度の利用人数は、それまでの半分以下となっています。教育・子どもセンターについては、他の施設に比べ減少割合は緩やかな状況です。

なお、町民会館分館については、平成30年9月末で閉館し、その機能の一部を教育・子どもセンターへ移行しています。

また、中家住宅については、平成30年に発生した台風21号の被害のため、修理工事を行った令和元年度まで臨時休館していますので、単純な比較はできませんが、令和2、3年度の利用者・来館者数は減少している状況です。

スポーツ施設等

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ひまわりドーム	329,353	201,718	140,012	139,775
町民グラウンド	18,306	19,850	13,679	15,238
中央公園多目的広場	20,340	21,610	20,430	19,110
八幡池青少年広場	8,240	10,000	6,069	8,078
町民グラウンドテニスコート	12,875	15,831	13,414	12,518
中央公園テニスコート	6,818	7,223	6,645	6,170

ひまわりドームの利用者についても、令和元年度以降の利用者数は、それ以前に比べて大幅に減少しています。

グラウンドやテニスコートの屋外施設については、活動自粛等はあるものの、コロナ前とほぼ同水準の利用があります。

図書館

(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
来館者数 (人)	151,778	145,148	111,913	115,524
個人貸出人数 (人)	93,114	86,212	74,198	74,923
個人貸出冊数 (冊)	363,387	334,279	300,384	299,513
予約件数 (件)	25,752	27,631	38,647	38,981

図書館の利用については、年々利用人数が減っている状況でしたが、令和元年度以降は、より来館者数、貸出人数、貸出冊数が減少しました。一方で、予約件数については、臨時休館中も電話やインターネットで予約を受付け、貸出を行ったため、大幅に増加しました。

※生涯学習関連施設の臨時休館・開館時間短縮の状況

- 令和2年3月4日～5月26日 臨時休館（全施設）
- 令和3年1月14日～2月28日 午後8時まで（ひまわりドーム、公民館、教育子どもセンター、煉瓦館）
- 令和3年4月25日～6月20日 臨時休館（全施設）
- 令和3年6月21日～7月11日 午後9時まで（公民館、煉瓦館）
- 令和3年8月2日～9月30日 午後8時まで（ひまわりドーム、公民館、教育子どもセンター、煉瓦館）
- 令和3年10月1日～10月24日 午後9時まで（公民館、煉瓦館）

2. 生涯学習に関するアンケート調査の結果から見えた現状

問1. あなたの年齢について

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80以上	未回答	合計
6	36	38	47	50	87	83	17	5	369

[問1～4]の分析

- ・アンケート回答者の年代は、60歳以上の方で約50%以上を超えています
- ・余暇の有無については、回答者の95%以上の方に余暇があり、そのうち40%以上の方は週9時間以上あります。
- ・生涯学習の活動状況については、61%以上の方が何らかの生涯学習に関する活動をしています（いた）。

問5. ①どのような活動か（複数回答可 合計数：641）

運動・スポーツ	115	ボランティア	32	読書・読み聞かせ	25	歴史・伝統文化	15	演芸	10	ICT利用活用	3
音楽	45	映画・演劇	30	健康増進・食育	24	環境・SDGs	13	文学	10	科学	2
職業教育・資格取得	44	PTAや地域の活動	30	乗り物	21	その他	12	舞踏・ダンス	10		
美術・工芸・書道	36	アウトドア	29	医療・介護	18	社会・時事	11	茶道・華道	9		
語学	33	子育て・家庭教育	26	ゲーム・eスポーツ	18	人権・社会福祉	11	防災・危機管理	9		

[問5-①]の分析

- ・現在活動している生涯学習について、60歳未満、60歳以上ともに「運動・スポーツ」の活動が一番多くなっています。
- ・60歳未満の世代では、次いで「職業教育・資格取得」「音楽」「語学」「子育て・家庭教育」に関するものが多く、「仕事や生活を豊かに円滑にするような活動」の傾向となっています。
- ・60歳以上の世代では、「ボランティア」「美術・工芸・書道」「音楽」が多く、「地域貢献や文化芸術活動に親しむ活動」をしている人が多くなっています。
- ・両世代とも、「アウトドア」「読書・読み聞かせ（60歳未満）」「ゲーム・eスポーツ（60歳未満）」「乗り物（60歳以上）」「映画」など、コロナ禍においても活動できる内容が上位にきています。

問 5. ⑧「熊取ゆうゆう大学」を知っていますか、また講座への参加はありますか (合計数：369)

知っている・参加有	28	知らない	98	未回答	133
知っている・参加なし	109	その他	1		

【問5-⑧】の分析

・「ゆうゆう大学」については、60歳未満の世代が約24%、60歳以上の世代は約50%の方が認知されています。しかし全体で35%以上の方が「未回答」であり、これは「興味がない」「事業内容が分からない」ということの表れと考えられ「知らない」を含めると、約63%の方に事業内容が届いていないと考えられ、周知方法や講座内容が住民ニーズに合致していない等の課題が考えられます。

問 8. 文化芸術活動を継続するまたは始めるため、町にどのような役割を果たしてほしいか (複数回答可 合計数:560)

活動環境の充実	173	情報の充実	51
イベントの充実	133	芸術家等への活動支援	47
著名人の招へい	91	その他	7
伝統行事等を生かしたまちづくりの推進	58		

【問8】の分析

・文化芸術活動を継続するまたは始めるにあたっては、両世代とも「活動環境の充実」が一番多く、次いで「イベントの充実」、「著名人の招へい」の順となっています。
・60歳未満の世代は「情報の充実」、その他意見でインスタ等SNSを通じた情報発信がありました。60歳以上の世代は「伝統行事等を生かしたまちづくりの推進」が多く、今後の施策実施にあたっては複合的な取り組みを検討していく必要があります。

問 11. 運動・スポーツを行う頻度 (合計数：369)

ほぼ毎日	60	週1~2日	123	月に1日	47	年数回	28	全くない	96	未回答	15
------	----	-------	-----	------	----	-----	----	------	----	-----	----

【問11】の分析

・運動スポーツを行う頻度について、両世代ともに「週1~2日程度」が最も多く、「ほぼ毎日」は60歳以上の世代の方の割合が高く、「月1日程度」の60歳以下の世代で割合が高くなっています。
・「全くない」は60歳未満の世代では約58%、60歳以上の世代では約20%であることから、問3「余暇の有無について」における「自分のための時間」も影響しているものと考えられます。

問 16. スポーツ推進のための町の施策 (複数回答可 合計数：597)

情報の提供	128	子育てとスポーツの両立支援	82	ボランティアの育成・支援	37
各種行事の開催	121	観戦事業の充実	63	障がい者スポーツの推進	21
サークル等の支援	92	指導者の育成	44	その他	9

【問16】の分析

・本町のスポーツ推進に期待することとしては、「情報の提供」と「各種行事の開催」が上位を占めています。問14「スポーツイベントへの参加」が「ない」と答えた約8割の方についても参加を促すための創意工夫を凝らした情報の提供を適宜行うとともに、世代を問わず、幅広く手軽に参加できるイベントの企画が必要であると考えられます。
・60歳以下の世代では「子育てとスポーツの両立支援」も多くの回答をいただいていることから、今後若い世代へのスポーツを推進するうえで具体的な方策の検討が必要です。

3. 5年間（平成30年度から令和4年度）の主な取組み

（1）学習機会の提供

- 各種講座、イベント等で、二次元コードを活用し、町広報やホームページ、チラシ等とリンクした情報発信を行い住民の興味関心に合わせ、さまざまな情報提供を行いました。
- デジタルアーカイブ事業として、熊取町の歴史・文化等についてホームページに公開することで、誰もが自宅のパソコンやスマートフォン等で熊取町の歴史や文化についての情報取得が可能になりました。
- 各分野のホームページの学習活動団体案内に、他分野の団体案内をリンクさせ、関連情報を探しやすくし、各施設でどのような活動が行われているのか確認できるようにしました。

（2）学習環境の整備

- 公民館・町民会館については、耐震性の必要性や老朽化に伴い、バリアフリーへの対応など整備の基本構想を策定し、整備工事に着手しました。
- 新型コロナウイルス感染対策として、アクリル板設置や定員の見直し等を行い、活動を縮小しながらも住民の学びを継続しました。
- 各施設の維持修繕や大規模改修等を計画的に行うため、令和元年度に「熊取町社会教育施設等個別施設計画」を策定しました。
- 町と各町内大学の間で包括的な協定を締結し、さまざまな分野で連携協力を行い、より専門的な知識や技術を住民に提供しました。

（3）自主活動の支援

- 住民団体等の協力を得て、さまざまな学習活動を活性化させる取組みを行いました。
- 和太鼓団体の講座運営や活動支援、吹奏楽団等の創設準備等、新たな文化活動の創出に取り組みました。

（4）地域連携の推進

- 令和元年に設立されたスポーツコミッションを支援し、スポーツによるまちづくりの推進に努めました。

（5）推進体制の整備

- 事業の点検評価、見直しを行うことが重要なため、教育委員会の点検評価を毎年行い、取組みに活かしました。

4. アンケート結果及びこれまでの取組みを踏まえた今後の課題

計画の中間見直しにあたり、生涯学習に関するアンケート結果及びこれまでの取組みにより自己分析を行った結果、次のような課題が浮かび上がりました。

(1) 住民の実情に応じた情報発信が必要

現在、情報発信については、広報紙や町ホームページで行うものが主となっており、講座やイベントの対象者に情報が届いていない状況です。特に今後は、インターネットを活用する若い世代が、好きな時に情報にアクセスできるよう、InstagramなどのSNSや動画配信など、さまざま方法を活用し、世代や住民の実情に応じた情報発信を提供できる仕組みづくりを検討することが必要です。

(2) 多様化する住民ニーズを把握し、学習機会や設備の充実を図ることが必要

それぞれの住民が置かれている状況によって、価値観が大きく異なり、関心や学びたいことが多様化しています。また、コロナ禍で十分活動ができない状況が見られる一方、活動が増加しているものもあります。今後は、対面での講座に併せオンラインやオンデマンド配信など、ICTを活用したハイブリッド方式の学習講座やWi-Fi設備など施設整備を実施し、働く世代や子育て世代向けの講座を充実するなど、誰もがいつでもどこでも学べるよう学習機会や設備の充実を図ることが必要です。

(3) 誰もがいつでもどこでも学べる環境整備が必要

令和元年度に策定した「熊取町社会教育施設等個別施設計画」に基づき、計画的な維持修繕を進めていますが、施設によっては、大規模な改修を予定しているため、その間、学習活動が継続できるような体制づくりが必要です。なお、施設の改修時には、バリアフリー化やトイレの洋式化など年齢層や障がいの有無などに関係なく誰もが利用しやすい施設の整備に努めることが重要です。

令和6年4月には公民館の改修と町民会館ホールの新築によるリニューアルオープンを予定していますが、基本コンセプト『すべての住民があらゆる場面で出会い、学び、育ちあう、文化創造施設』を実現できるよう、取組みを進めることが必要です。

(4) 地域における学習活動が発展するための担い手づくりが必要

少子高齢化に伴い、個々の学習活動や団体を担っていく後継者が不足しており、学習活動の先細りが懸念されています。地域コミュニティが希薄化する中、今後は、住民相互の交流や活動のきっかけとなる生涯学習の機会を提供することで、地域における学習や交流を通じたつながりづくりを強め、個々の学習活動や団体の自主的な活動を進める必要があります。

Ⅱ. 今後取り組むべき重点目標

1. 課題解決に向けた今後取り組むべき重点目標

熊取町の生涯学習における現状及び課題を整理したところ、住民の生涯学習活動をより推進するために、住民の実情に応じたあらゆる方法により情報発信し、あらゆる媒体を活用し、より多くの人に興味関心を持ってもらえる仕組みづくりが必要です。

また、多様化する住民の学習ニーズに対応した講座を企画するとともに、ICT 環境の整備や利活用ができる学習環境の整備を行い、誰もが学びたい、いつでも学べる講座運営を目指します。

学習活動の場である社会教育施設については、「熊取町社会教育施設等個別施設計画」に基づき、計画的に維持修繕を行い、機能面での充実、利便性の向上に努め、「学びの場」を提供します。

地域の学習活動において、少子高齢化等による担い手が不足しており、担い手づくりを行う住民相互の支援や活動のきっかけづくりが必要であり、地域における学習や交流を通じたつながりを強め、地域コミュニティの活性化を図ります。

本計画の見直しにあたり、本町が今後重点的に取り組むべき目標を次のように定め、推進します。

- (1) 積極的な情報発信
- (2) いつでも学べる機会の創出
- (3) 学びの場の提供
- (4) 学びを通じた地域づくり

熊取町第4次生涯学習推進計画（計画期間：平成30年度～令和9年度）で示した【熊取町第4次生涯学習推進計画における個別施策の位置づけ】（次頁参照）の体系に沿って、各取組みの「今後の展開」及び上記重点目標に基づく新たな取組みを15頁からの基本計画として示します。

Ⅲ 【熊取町第4次生涯学習推進計画における個別施策の位置づけ】

基本目標	基本方針	方策	取組み	生涯学習	文化芸術	運動・スポーツ	図書館		
仲間といきいき活動し、みんなが健康で心豊かに暮らせるまち 熊取	Ⅰ. 学習機会の提供	1. 情報の収集・発信	(1) 情報・資料の収集	① 学習活動に関する情報の収集と適切な保存管理					
				② 地域の文化財資料の収集			③ 図書館資料の収集・整理・保存		
		(2) 情報の発信・提供	④ ICTを活用した情報提供						
			⑤ 文化・芸術情報の発信	⑥ スポーツ教室・イベント等の情報発信	⑦ 図書館の蔵書やサービスに関する情報発信				
		2. 多様な学習活動機会の創出	(1) 熊取ゆうゆう大学・学習機会の充実	⑧ 熊取ゆうゆう大学の充実					
				⑨ 人権学習の機会の確保	⑩ 煉瓦館での企画展等の開催				
	(2) 各種活動へのきっかけづくり		⑪ 生涯学習に関する情報の提供						
	(3) 生涯スポーツの振興			⑫ スポーツ活動へのきっかけづくり					
				⑬ 各種スポーツイベントの開催					
				⑭ 健康寿命を延ばす取組み					
	Ⅱ. 学習環境の整備	1. 学習活動環境の整備	(1) 施設の維持管理	⑮ 施設の計画的な維持管理					
				⑯ さまざまな施設の利活用		⑰ さまざまな施設の利活用			
		(2) 施設運営の最適化	⑰ 居心地の良い学びの場づくり						
		2. まちの特長を活かした学習活動機会の充実	(1) 歴史資源の保存・活用		⑱ 歴史資源の保存・活用				
			(2) 図書館機能の向上・活用				⑲ 一人ひとりの住民への読書活動の支援 ⑳ 課題解決支援のための図書館サービスの充実 ㉑ 子どもの読書環境の整備		
			(3) スポーツ施設の活用			㉒ スポーツ施設の活用			
	(4) 町内大学との連携による学習機会の充実	㉓ 町内大学との連携による学習活動機会の充実							
	Ⅲ. 自主活動の支援	1. 学習活動成果の発表・活用機会の確保	(1) 地域人材の活用	㉔ 住民との協働による事業の実施					
				㉕ 学習成果の活用		㉖ スポーツリーダーバンク等の活用			
		(2) 文化芸術活動の発表・活動機会の充実		㉗ 住民の文化・芸術活動への支援		㉘ 住民の文化・芸術活動への支援			
		2. 学習活動分野の特色に応じた支援の展開	(1) 活動を支える人材の養成	㉙ 住民活動を活性化するための支援					
	(2) 社会教育団体等への支援		㉚ 社会教育関係団体への適正な支援		㉛ スポーツ関係団体の支援・育成				
	Ⅳ. 地域連携の推進	1. 各種団体等の連携機会の充実	(1) 住民団体や関係機関等との連携	㉜ 青少年の健全育成 ㉝ 子どもの安全・安心な居場所づくり	㉞ 町内大学と連携したイベント等の開催	㉟ 町内大学と連携したイベント等の開催	㊱ 住民団体・関係機関等のネットワーク・地域交流の推進		
			(2) スポーツを通じた地域づくり			㊲ スポーツを通じた地域交流・まちづくり			
		2. 各種活動を通じた地域づくり	(1) 教育コミュニティづくり	㉞ 学校・家庭・地域の連携強化					
Ⅴ. 推進体制の整備	1. 行政の推進体制の強化	(1) 庁内関係部局との連携強化	㉟ 庁内関係部局との情報共有と情報発信						
			㊳ 子育てや福祉等関係部局との連携			㊴ 子育てや福祉等関係部局との連携			
	(2) 職員の能力向上	㊵ 職員の能力・専門性の向上							
	2. 事業の評価	(1) 教育委員会活動の点検・評価	㊶ 教育委員会活動の点検・評価の実施と公表						
		(2) 社会教育委員会議	㊷ 社会教育委員会議の運営						
	(3) 図書館協議会				㊸ 図書館協議会の活用				
3. 計画の定期的見直し	(1) 計画の中間見直し	㊹ 生涯学習推進計画の中間見直し							

第3章 基本計画

I. 学習機会の提供

新たな学び・活動を始めようとする流れを活発にするためには、さまざまな時間や場所において、1つでも多くのきっかけがあり、また、その情報を簡単に手に入れることができる環境づくりが必要です。

このような環境づくりを進めるために、各学習活動の情報を収集し、発信するとともに、幅広い学習機会の提供に取り組みます。

1. 情報の収集・発信

(1) 情報・資料の収集

① 学習活動に関する情報の収集と適切な保存管理 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習活動に関する情報を幅広く収集するとともに、必要に応じていつでも活用ができるよう、情報の内容などに応じて整理し、保存管理を行いました。 ● 各分野において、住民に役立つ情報、学習活動への参加のきっかけになるような情報を収集し、内容等に応じて分類整理し、保存管理を行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野で情報収集しており、収集方法などに統一性がないため、他市町村や他施設の情報などは、受け身的な収集にとどまっている。 ● 収集した情報の整理が不十分なため、情報が必要な人に十分に届けられていない。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分野の連携を強化し、定期的に検討会議などを実施します。 ● 情報の整理方法を見直し、必要な人に届けられるよう取り組みます。

② 地域の文化財資料の収集 【文化芸術】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に残る文化財や古民具、風習・習俗などの資料、情報を収集しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 文献資料について、整理が進んでおらず、文献などの整理を行う必要がある。 ● これまで整理されてきた資料については、紙ベースのものであり、デジタル化が必要となる。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● これまで行ってきた調査や整理された資料が、散逸的で大量にあるため、まずデジタル化を行うためのフォーマットを作成し、計画的に再整理を行います。

③ 図書館資料の収集・整理・保存 【図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館資料の収集や保存については、幅広い分野にわたる資料の体系的な収集に取り組みました。 ● 地域情報や町内の学校・各種団体の資料の収集・保存については、図書館で集約できるよう、関係部局・機関などとの連携の強化に取り組み、住民グループや関連機関が作成した会報などの収集に取り組みました。また、地域のお店情報などの収集にも努め、情報の発信と関連図書の展示を行いました。 ● 雑誌オーナー制度の継続により、所蔵タイトル数が増えました。 ● 令和2年度には、ふるさと応援寄付を活用し、英語多読図書を導入しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナの影響や図書館の臨時休館で、住民団体の活動が休止・縮小しており、地域情報の収集が十分に行えていない部分がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動を再開している住民団体の状況を確認することや、新たに活動を開始した住民団体などの情報を収集し、地域情報の収集を行います。

(2) 情報の発信・提供

④ ICT を活用した情報提供 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種講座やイベントの周知には、町広報やホームページ、案内チラシなどで二次元コードを情報発信の一つとして活用しました。 ● 一部講座については、インターネット専用フォームを利用して申込、受付を行いました。 ● アフターコロナの講座などの運営について、オンラインでの講座やリモート会議を実施しました。 ● 各分野のホームページの学習活動団体案内に、他分野の団体案内のリンクを付け、関連情報を探しやすくしました。また、団体情報の収集内容を統一しました。 ● デジタルアーカイブ事業として、文化芸術・図書館が協働で、その内容を検討し、熊取町に関わる歴史、文化等についてホームページに令和2年度から公開しました。また、図書館では熊取の昔話や町行政資料（計画書）を図書管理システムの機能を活用して公開しました。 ● 図書館での情報収集に役立てるため、Wi-Fiを導入しました。 ● インターネットを通じた図書館の蔵書検索や予約を充実させました。また、利便性が向上するよう、法律や判例などの検索が容易になる法令データベースを導入しました。 ● ICTを活用した電子図書館を導入し、非来館型の利便性の高いサービスとして、24時間いつでも電子書籍が借りられる環境を整えました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報の受け手側に興味を引くような仕掛けづくりのため、SNS（インスタグラムやツイッターなど）を活用するなどし、若い世代や利用のなかった世代に興味を持ってもらえるような情報発信を行う必要がある。 ● 地域資料のデジタル化を促進する必要がある。 ● インターネットで図書館の蔵書検索や予約件数を増やす必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 講座の内容や対象者によって周知方法を変更します。また、情報の受け手が興味をもつ内容を発信します。 ● 町のSNSに掲載する際、参加者が拡散したくなるような仕組みをつくります。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館・町民会館整備の際は Wi-Fi 設備の拡充を図り、パソコンや児童・生徒が持つ 1 人 1 台パソコンなどの持ち込みにより学習機会の充実を図ります。 ● 図書館の蔵書検索や予約の利便性の向上に取り組み、インターネットでの予約方法などの使い方についてのPRを行います。 ● 誰もがいつでも使える電子図書館の活用方法をPRします。また、児童・生徒が持つ 1 人 1 台パソコンの活用につながるように取り組みます。
--	---

⑤ 文化・芸術情報の発信 【文化芸術】

5 年間の取組み成果 (H30～R4 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 町広報やホームページに各種情報の掲載や各施設に情報コーナーを設置し、パンフレットやチラシなどを配架しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査の結果においても、あらゆる項目で「情報の充実」を求める声が多く、より広く効率的に提供できる方策を検討する必要がある。
新たな取組み (R5～9 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 町ホームページのさまざまな情報について、リンク機能を活用するなどし、積極的に情報を提供します。 ● 情報の受け取りについて年代ごとに大きな違いがある現代において、若年層から高齢層まで幅広く提供するため、広報誌やポスターチラシ、ホームページ、SNSなどさまざまな方法を活用して発信します。

⑥ スポーツ教室・イベント等の情報発信 【運動・スポーツ】

5 年間の取組み成果 (H30～R4 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● ひまわりドームでは、スポーツ団体の活動内容や各種スポーツ教室、イベント情報などを、ホームページ、チラシやポスターなどにより提供しました。 ● ひまわりドーム指定管理者が新たにホームページを立ち上げ、町ホームページとリンクし、ひまわりドームでのスポーツイベントの情報や施設の空き状況、各種スポーツ教室など情報発信を通じて住民へ周知を行いました。
---------------------------	--

<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査の結果では、「情報の充実」を求める声が多いことから、必要とする人が得られるよう発信方法を検討する必要がある。
<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな世代に対して、幅広く情報を提供するため、SNSなどさまざまな方法を活用して情報発信し、多くの人に関心を持ってもらえるよう、利用しやすい情報提供を行います。

⑦ 図書館の蔵書やサービスに関する情報発信 【図書館】

<p>5年間の取組み成果 (H30～R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館の蔵書やサービスのPRとして、定期的に新刊図書案内やテーマ別図書リストを発行しました。 ● 「健康コーナー」など、地域や個人の課題解決に役立つコーナーに加え、障がい者への理解を深めるコーナーとして「りんごの棚」を設置し、障がいに応じたさまざまな形態の資料などを集めました。 ● 蔵書を活用した特集展示に加え、町内大学やゆうゆう大学、関係機関、関係団体などと連携した展示を行い、さまざまな情報を発信しました。 ● 書庫の資料を有効に活用するため、月1回「書庫見学ツアー」を開催しました。 ● 行政サービスの向上につながるよう、行政情報の提供や資料の貸出を行いました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会状況や住民ニーズを敏感にとらえた企画展示やコーナーづくりを継続して実施する必要がある。 ● さまざまな図書館サービスが更に認知される必要がある。
<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会状況や住民ニーズを的確につかみ、まちづくりの情報拠点として資料提供し、情報発信に努めます。 ● 図書館の基本的なサービスである貸出や予約についてのPRを強化します。

2. 多様な学習活動機会の創出

(1) 熊取ゆうゆう大学・学習機会の充実

⑧ 熊取ゆうゆう大学の充実 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナの影響により感染対策をとりながら可能な範囲で講座の運営を行いました。 ● 講座の内容については、受講者アンケートや社会的要請を考慮し、全て対面で開催しました。 ● 社会的課題や住民の関心に対応した講座などの企画を行うよう努めました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も、新型コロナの影響を考慮し、講座やイベントの実施に際し、距離を保つ、大声を出さない等、感染対策を講じながらも魅力ある内容を検討する必要がある。 ● 実施している講座については、子ども向け、高齢者向けのものが目立っている。 ● 働く世代向けの事業が少ない。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン開催、オンデマンド配信等当日参加や24時間受講可能な講座運営、アバターなどによる仮想体験ができるように検討します。(その場にいるような体験が出来るように) ● 大阪府の人材派遣、企業のCSR※の活用、身近で親しみやすい人材の登用を行います。 ● 社会人の資格取得や学び直しに関する講座を拡充します。 ● 働く(輝く)世代向け講座を新設します。 ● 働く世代、子育て世代向けのイベントなどの企画を行います。

※CSR：企業の社会的責任という意味があり、この計画においては講座への講師派遣、工場や施設見学の受け入れなど、企業が社会を構成する一員として参加する教育活動を指しています。

⑨ 人権学習の機会の確保 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権・女性活躍推進課と連携して、人権啓発地域映画会などを実施し、人権について考える機会を提供しました。 ● 人権に関わるテーマを設定した「人とゆたかにつながる講座」を実施し、人権や相互理解について学ぶ機会を提供しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会情勢の変化による価値観の多様化などに伴い、人権に関する問題・テーマが策定時よりさらに多様化しており、人権学習の重要性がますます高まっている。

<p>新たな取組み (R5~9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会状況などの背景も踏まえた内容を今後の講座やイベントのテーマに反映していくなどの工夫を行い、人権について幅広く学ぶことができる機会を確保します。 ● 子どもの権利条例が制定されたことをきっかけに、福祉部局とも連携した新たな人権学習の機会を確保します。
----------------------------	---

⑩ 煉瓦館での企画展などの開催 【文化芸術】

<p>5年間の取組み成果 (H30~R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 熊取の歴史や文化を紹介する企画展示などを年に2回程度開催しました。 ● 住民と協働し、冬季を除き通年で藍染体験事業を実施しました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展を実施するにあたっては、町内文化財に関する資料を精査する必要がある。
<p>新たな取組み (R5~9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民団体などの協力を得ながら、事業内容の充実などを図り、多様な学習機会の充実に努めます。 ● 郷土の歴史や文化に関する展示については、展示内容の見直しなどにより、誰もがわかりやすい内容になるよう努めます。



(2) 各種活動へのきっかけづくり

⑪ 生涯学習に関する情報の提供 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動団体の一覧表や成果発表の資料などを作成しました。 ● イベントなどのポスター、チラシなどをホームページへ掲載しました。 ● 子ども向けイベントについては、対象者（小学生など）へ資料を配布しました。 ● 各分野のホームページの学習活動団体案内に、他分野の団体案内のリンクを付け、関連情報を探しやすくしました。また、団体情報の収集内容を統一しました。 ● 図書館の情報コーナーに、町の生涯学習に関するコーナーを設置しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 各施設でイベントや学習活動などの連携が十分取れていない。 ● イベント等などの準備に余裕を持って取り掛かかれていないため、十分な情報発信ができていない。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 効果的な情報発信ができるよう、余裕を持った講座運営を行います。 ● 各施設のイベントについて、開催日などの確認を定期的に行い、各施設間で、同内容のイベントなどが重ならないよう、また、連携や共催などにより集客が見込めるよう同時開催などを行います。

⑫ スポーツ活動へのきっかけづくり 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ推進委員によるスポーツ教室やひまわりドームの指定管理者が行う各種スポーツ教室などを通じて、スポーツを始めるきっかけづくりに取り組みました。 ● ひまわりドームについては、令和元年度から新たな指定管理者となりましたが、これまで開催してきた大規模な大会の招致は継続し、さらに新たな大規模大会の招致を町と連携して行い、全国規模の大会やプロスポーツの公式戦などを招致し、ハイレベルな競技や試合を身近に観ていただくことで、「観るスポーツ」の機会を提供しました。
-------------------------	--

新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ団体の会員数が減少傾向にあるため、各活動やイベントを通じて、スポーツを始めるきっかけづくりに取り組む必要がある。 ● 毎年同じ内容で実施しているイベントが多いため、新たな工夫が必要である。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々のスポーツサークルや指定管理者も含めたスポーツ団体とさらなる連携を行い、スポーツがもつ魅力をさまざまな方法で発信することで、新たにスポーツを始めるきっかけづくりへとつなげます。 ● 全国規模・ハイレベルな競技や試合を身近に観ていただくことで「観るスポーツ」を充実させ、住民のスポーツへの参加意欲を高められるよう取り組みます。

(3) 生涯スポーツの振興

⑬ 各種スポーツイベントの開催 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の健康増進及び体力づくり、地域の親睦を図ることを目的に18種目の競技による「町民総合体育大会」を開催しました。 ● さまざまなスポーツを体験できるイベントとして、「くまとりスポーツフェスティバル」を開催し、住民の方々にスポーツを行う機会を提供しました。 ● 年齢・性別を問わず始められる生涯スポーツの1つとして「太極拳フェスティバル」を開催しました。 令和元年度には第20回記念大会として盛大に開催し、太極拳の魅力を広くPRしました。 ● さまざまな人がスポーツに触れ、互いに交流できる機会を確保することなどを目的に、町内大学と行政の連携協力による「くまとりロードレース」を開催しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が減少傾向にあるため、より多くの方に参加してもらえるよう取り組む必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民協働の視点を踏まえながら、各種イベントのリニューアルやさまざまな趣向を凝らすことで魅力あるイベントになり、より多くの方が参加したいと思えるような取組みを進めます。

⑭ 健康寿命を延ばす取組み 【運動・スポーツ】

<p>5年間の取組み成果 (H30~R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯スポーツの1つとして、幼児から高齢者まで、動きが緩やかで怪我もしにくい太極拳の普及を行いました。 ● 指定管理者と連携し、ひまわりドームの周辺を散策するウォーキングイベントを実施するなど、だれもが取り組みやすいウォーキングの普及に取り組みました。 ● 指定管理者と連携し、ひまわりドームを活用して、シニア層を対象とした各種健康運動教室を開催しました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康寿命を延ばす取組みについては、住民個人の意思に委ねる部分が大きいため、受け身になりがちで、住民自らが主体となって取り組めていない状況にある。
<p>新たな取組み (R5~9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康寿命を延ばすため、太極拳等の生涯スポーツの機会を提供するほか、だれもが取り組みやすいスポーツ種目の発掘、研究を行い、スポーツ人口の増加に取り組みます。



II. 学習環境の整備

学習活動を始めするためには、それらを行う「場」を充実させる必要があります。

ハード面としては、生涯学習活動の拠点となる社会教育施設等の維持管理や運営の最適化を進め、ソフト面としては本町の特長を活かした学習活動の機会を提供することなどにより、「場」づくりを推進します。

1. 学習活動環境の整備

(1) 施設の維持管理

⑮ 施設の計画的な維持管理 【全分野】

<p>5年間の取組み成果 (H30～R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度に「熊取町社会教育施設等個別施設計画」を策定し、各施設の維持修繕を計画的に行いました。 ● 公民館・町民会館については、建築後約50年となり耐震化の必要性や老朽化が進んでいることから、以下の方針を策定し、整備工事に着手しました。 令和元年度「公民館・町民会館の整備方針について」 令和2年度「熊取町公民館・町民会館整備基本構想」 令和3年度「熊取町公民館・町民会館整備事業基本設計」 令和4年度「熊取町公民館・町民会館整備事業実施設計」 ● ひまわりドームについては、指定管理者と連携し、利用者が安全かつ快適に利用できるよう施設点検を行い、施設の劣化状況や状態を把握し、適宜適切な維持修繕を行いました。 ● 図書館の指定管理者制度の導入検討については、令和元年度の図書館協議会答申を受け検討した結果、引き続き直営で運営することになりました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育施設等の今後の改修については、機能的重視の考え方により相互補完の役割を果たす必要があることから、計画的に連携しながら進めていく必要がある。 ● アンケートでは、施設的环境改善を望む声が多くなっている。

<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の大規模改修などについては各施設と連携を密にし、情報を共有しながら、「熊取町社会教育施設等個別施設計画」に基づき計画的に進めます。 ● 公民館・町民会館の整備後の施設運営について、一部事業委託など民間事業者のノウハウを活用しながら、直営での運営を行い、住民サービスの向上に努めます。 ● ひまわりドーム、図書館については、非構造部材の耐震化など大規模改修とあわせ、トイレの洋式化などを含む更なるバリアフリー化を進め利用者の利便性向上に努めます。また、工事期間中の施設利用やサービス内容についてもあわせて検討します。
----------------------------	---

⑩ さまざまな施設の利活用 【生涯学習 運動・スポーツ】

<p>5年間の取組み成果 (H30～R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 町立小・中学校内の拠点教室などにおいて、地域の住民団体がさまざまな学習活動を行いました ● 町立小・中学校の体育館やグラウンドを一般開放し、運動・スポーツなどを中心とした各種活動の場を提供しました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 受益者負担の公平性の観点から、施設使用料などについて、検討する必要がある。
<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化社会がもたらす影響を見据え、新たな生涯学習の活動場所確保や施設の維持管理について関係各課との調整・協議・連携に努めます。 ● 適正な施設使用料などになるよう取り組みます。

(2) 施設運営の最適化

⑰ 居心地の良い学びの場づくり 【全分野】

<p>5年間の取組み成果 (H30～R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナ対策として、利用者が安心して利用できるよう、検温器、消毒液、ビニールカーテンの設置、机や椅子を間引き適正な利用人数とするなどの感染症対策を行いました。 ● 煉瓦館の自習場所については、従前は空いている会議室等を活用し不特定多数の受け入れを行っていましたが、新型コロナ対策のため町内在住在勤者の事前登録制とし、交流ホールなどのオープンスペースを活用したため、自習スペースを常設することが可能となり学びの場を確保することができました。 ● 現在使用していない旧町民会館分館については、売却検討や現行施設の機能面の向上、複合化等さまざまな使用方法の検討を行いました。 ● 図書館内のレイアウトを見直し、居心地の良い滞在空間をつくりました。また、館内の書棚の見出しにピクトグラムを活用するなど、わかりやすい見出しに変更しました。 ● 図書館の屋外スペースの活用として移動販売者によるカフェの出店を開始しました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナの感染状況を確認しながら、運営方法や利用人数の制限などの施設管理を行う必要がある。
<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍においても利用者が安心かつ快適に利用できるよう各施設の設備の配置などについて適時見直しを行います。 ● With コロナやアフターコロナを見据え、住民の学習活動の制限をできるだけ抑え、学習活動の場を広げるため、オンラインやオンデマンド配信などが可能な設備の導入などを進めます。 ● 社会教育施設等については、これまでの利用者別、目的別に施設を運営するといった施設重視の考え方から利用者の層や利用目的に柔軟に対応できる機能重視の考えに基づいて、各施設の使用料や減免規定について見直しを行います。 ● 現在改修工事を進めている公民館については、基本構想に掲げた、さまざまな世代での利用促進を図るため、小さい子ども連れでも利用しやすいような文化・交流ラウンジの設置や学生の自習や就業支援を行うための自習スペースを設置します。

2. まちの特長を活かした学習活動機会の充実

(1) 歴史資源の保存・活用

⑱ 歴史資源の保存・活用 【文化芸術】

<p>5年間の取組み成果 (H30~R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国・府指定文化財については、適切に維持管理を行うとともに、その他の文化財についても、重要なものは町指定文化財に指定し、保護を図りました。 ● 町内の文化財については、一般公開や企画展などを通じて、広く普及、啓発を図るなど活用を行いました。 ● 平成30年度に台風による被害を受けた重要文化財中家住宅の災害復旧工事を行いました。 ● 令和2年度に重要文化財降井家書院の経年劣化による茅葺屋根の葺き替えや障壁画の修復などの改修工事が行われ、補助金を交付するなど支援を行いました。 ● 平成31年度に文化財保護法改正により文化財行政のマスタープランである「文化財保存活用地域計画」が法制化されたことから、その作成に向けて令和4年度より取り組みました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来にわたって確実に継承していくためには、文化財の補修や整備を計画的に行うことが必要であるが、建造物や史跡の保存活用にあたっては、多額の経費が必要となる。 ● 町内には古い建造物も残されているが、生活様式の変化などから取り壊されていくものが多くなっている。指定文化財への指定は調査に時間がかかるなど即時性に欠ける面がある。 ● アンケート調査では、文化財などの継承や環境の充実、観光資源として魅力あるものとするために何が重要か？という問いに対し、「子どもが伝統文化に親しむ機会の充実」を挙げている方が1番多い。
<p>新たな取組み (R5~9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録文化財の制度を活用し、重要な建造物の保護対策を行います。 ● 令和8年度の作成を目指す、「文化財保存活用地域計画」を通して、文化財の計画的な保存活用を行うとともに、さまざまな歴史資源を活かした講座やイベントの開催など、特に子どもにも郷土の歴史をわかりやすく伝えていきます。

(2) 図書館機能の向上・活用

⑱ 一人ひとりの住民への読書活動の支援（図書館）

<p>5年間の取組み成果 (H30～R4年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 貸出サービスについては、令和元年6月から泉南地域図書館の相互利用に関する協定書の締結により、岸和田市以南在住の人は地域内の全ての公共図書館（室）が利用可能になりました。 ● 図書管理システムの機器更新に伴い、セルフ貸出機を1台導入しました。 ● 駅下にぎわい館で予約資料の受渡しサービスを行いました。 ● 障がい者サービスとして、さまざまな形態の資料や障がいへの理解を深める本を集めたコーナーの設置やマルチメディアページの収集を開始しました。また、来館が困難な人には自宅に本を届ける宅配サービスを行いました。 ● シニア層へのサービスとして、大活字本の収集や健康講座などシニア層に関心の高い取組みを行いました。 ● 読んだ本を記録できる読書通帳システムを継続し、小学校3年生の図書館見学では、「読書通帳」を全員に配布しました。 ● 24時間いつでも電子書籍が借りられる環境を整え、非来館型の利便性が高いサービスを導入しました。
<p>新たな課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人貸出が減少傾向にあるため、住民のニーズを調査し、蔵書を充実させる必要がある。特に20代、50代の利用者が少ない傾向にあり、また、シニア層は地域や個人の課題を解決するための、さまざまな情報を求めている傾向が強い。 ● 10代の子どもたちに図書館からの情報を届ける工夫が必要。
<p>新たな取組み (R5～9年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い世代の人が図書館を利用できるようなきっかけづくりを工夫します。 ● 住民に広く情報が伝わるよう、さまざまな方法で情報発信を行います。 ● 本やイベントなど、10代の子どもたちに向けた情報発信を行います。

⑳ 課題解決支援のための図書館サービスの充実 【図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の知りたい情報の相談に応じたり、資料を提供するレファレンスサービスを行いました。 ● 利用者が欲しい情報を入手する支援を行うためのリーフレット「本の調べ方ガイド」や「生活応援ガイド」を作成しました。特に認知症に関する「生活応援ガイド」は、介護保険課関連の事業で配布されるなど活用されました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館での調査・相談を利用したことがない住民への周知方法等を工夫する必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 館内の掲示やホームページの他に、さまざまな方法で情報発信し、レファレンスサービスをPRします。

㉑ 子どもの読書環境の整備 【図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「熊取町第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、住民団体や関係部局と連携し、生まれる前から切れ目ない子育て支援を通じて、子どもの読書環境の整備に努めました。 ● 「熊取町第4次子ども読書活動推進計画」(令和4年3月)を策定し、第3次計画の内容を踏襲しつつも、国や府の計画から見えた新たな課題についても盛り込み、引き続き子どもの読書活動を推進した。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記第4次計画の進捗状況を把握・評価し、事業の調整を行う必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記第4次計画に基づき、子どもたちが生涯にわたって豊かに生きる力を育むための読書活動を推進します。

(3) スポーツ施設の活用

㉒ スポーツ施設の活用 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● ひまわりドームや町民グラウンドについては、各種スポーツ団体の活動や大規模大会の招致、また、指定管理者が実施している各種スポーツ教室の充実により、ひまわりドームの高い稼働率が保たれました。 ● 学校体育施設の一般開放により、スポーツ団体の活動の場を確保しました。
-------------------------	---

新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査の結果にあるように、ひまわりドームや町民グラウンドの稼働率が高く、特定の利用者からのみの利用となっており、新たなニーズに答えられていない。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ団体への活動支援と住民参加のイベントとのバランスを考慮し、これまで利用したことがない住民への利用を促進します。

(4) 町内大学との連携による学習機会の充実

② 町内大学との連携による学習活動機会の充実 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 町と各町内大学の間で包括的な協定を締結し、生涯学習・文化等のさまざまな分野において連携協力を行いました。 ● 各町内大学の協力を得て、生涯学習に関する各種講座、講演会や青少年のキャンプ事業などを実施しました。 ● 町民文化祭の開催に合わせ、町広報への掲載や熊取駅でのチラシ配布など町内大学の学園祭等などについても協働してPRを行いました。 ● 大阪体育大学が持つ施設やノウハウなどを活用して、小学生向けに、スポーツの普及活動を行いました。 ● 関西医療大学・ひまわりドーム指定管理者と連携して健康相談、健康教室などを実施しました。 ● 大阪観光大学と連携し、図書館の「旅コーナー」を充実しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生や教員の指導依頼を行う際、新型コロナウイルス感染防止対策が事業などによって異なるため、個別の判断が必要である。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続き町内大学と連携し、住民の知的関心や個人の課題解決に役立つようなテーマを選定し講座などを開催します。



Ⅲ. 自主活動の支援

学習活動を継続していくためには、その動機づけが重要です。

学習活動の成果が適切に評価されるような機会を確保することで、動機づけを促すとともに、それぞれの内容に応じた支援を行い、学習活動の継続化への支援や自主的な活動を促す取組みを進めます。

1. 学習活動成果の発表・活用機会の確保

(1) 地域人材の活用

⑭ 住民との協働による事業の実施 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習を実践する住民団体と協働して、熊取ゆうゆう大学において、「地域活動入門講座」を実施しました。 ● 煉瓦館での藍染め体験事業について、住民団体である「くまとりわたっ子くらぶ」との協働により事業を展開しました。 ● 熊取ゆうゆう大学などの一部において、「熊取町文化振興連絡協議会」加盟クラブの方や「人材バンク」登録者に講師を務めていただき講座を実施しました。 ● 太極拳サークルと協働して、「太極拳フェスティバル」を開催し、令和元年度には第20回記念大会として、盛大に開催しました。 ● 図書館では文学や歴史、健康等のテーマで、住民団体等と連携し、講座・講演会を行いました。 ● 図書館のボランティア活動として、読書振興やイベントの実施、施設管理の支援等、多岐に渡る活動がありました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域人材を活用した生涯学習に関する事業等を開催することで、伝統文化の継承や地域の活性化及び地域交流の場としての取組みが求められている。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民団体などと連携し、住民の知的関心に応えられるようニーズに沿った事業の開催に努めます。 ● 事業や講座などを通じて、さまざま方法での住民団体の活動周知を図るなど、次代の担い手の育成支援を行います。

⑫ 学習成果の活用 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人の学習活動成果とそれを学びたい人々を結びつけることを目的に「くまとり人材バンク制度」を運用しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度の利用件数が低調であるため、今後の利用促進に向けた方策を講じる必要がある。 ● 「人材バンクデー」(体験・実演会)についても参加者が少なくなっているため、事業の周知方法や人材バンク登録者の紹介方法などを見直す必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材バンク登録者の活動内容等を画像や動画により可視化し、情報発信を行うなど、制度の利用を促進します。 ● 制度の適切な運営に向けて、「人材バンクデー」の見直しなどを行います。その際、オンラインやオンデマンドによる周知や開催方法の検討など幅広い世代に向けた情報の発信、提供を行います。

⑬ スポーツリーダーバンク等の活用 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツリーダーバンクの登録者を自治会やスポーツサークル、中学校の運動部活等からの要請に応じて派遣しました。 ● 町内大学の学生が学習支援ボランティアとして、町立学校の体育授業で教職員の補助を行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度の利用件数が低調であるため、今後の利用促進に向けた方策を講じる必要がある。 ● 中学校における部活動の地域移行に向けて、スポーツリーダーバンクを活用した取組みを行う必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録者制度のPRやさまざまなスポーツの新規登録者を発掘するとともに、中学校における部活動の地域移行に向けて、指導者の育成に努めるとともに積極的な活動、派遣機会の創出に取り組めます。

(2) 文化芸術活動の発表・活動機会の充実

㊦ 住民の文化・芸術活動への支援 【文化芸術 図書館】

5年間の取組み成果 (H30~R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 煉瓦館や中家住宅、図書館において、住民参加型のコンサートを開催するなど、住民の各種文化・芸術活動の成果などを発表する機会や場を提供しました。 ● 住民の文化・芸術活動のきっかけづくりとなるよう、質の高い文化事業や伝統芸能などの公演を行いました。 ● 図書館の文化活動の推進については、ピアノコンサートや公募型の写真展などさまざまな取組みを行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート結果では、町に果たしてほしい役割や今後施設に望むことにおいて、活動環境の充実、イベントの充実を望む声が多くなっている。
新たな取組み (R5~9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 気軽に参加できる文化・芸術の体験会や多種多様な事業の実施など、これまで活動を行っていない方へのきっかけづくりとなるような取り組みます。 ● 煉瓦館や中家住宅など、本町の歴史的建造物を活用した新たな文化芸術活動の場や活動方法を提供するなど、施設に応じた場を提供します。 ● 町民会館ホールのリニューアルを契機として、和太鼓団体や吹奏楽団創設の取組みを進めているほか、劇場・音楽堂などへの芸術文化活動支援員の派遣を受けるなど、ソフト事業充実の検討を進め、さまざまな文化芸術公演などに取り組みます。

2. 学習活動分野の特色に応じた支援の展開

(1) 活動を支える人材の養成

⑳ 住民活動を活性化するための支援 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の住民団体などの協力を得て、講座を実施するなど、さまざまな学習活動を活性化させる取組みを行ってきました。 ● 文化団体などと協働で事業を実施することにより団体の活動の活性化を促進しました。スポーツボランティアと協働してスポーツイベントなどを開催しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査において、文化芸術活動を継続、始めるにあたって町に果たしてほしい役割は？という問いに対して、活動環境の充実を望む声が多くあった。 ● 中学校における部活動（文化部）については、教師の負担を軽減するため、社会教育団体などとの連携による運営を支える体制を構築することが求められている。 ● スポーツボランティアの人数が少ない状況にあり、ボランティアの育成を図る必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民のさまざまな文化芸術活動への支援として、公民館・町民会館、煉瓦館、図書館については、それぞれの特色を活かし相互補完しながら活動場所の提供を行います。 ● 令和6年4月にリニューアルオープンする予定の公民館・町民会館ホールでは、「すべての住民があらゆる場面で出会い学び育ちあう文化創造施設」を基本コンセプトとして誰もが利用しやすい施設整備を行います。 ● 活動人口の増加を目指すことで住民活動を支援するべく、アンケート調査でも要望の多い、著名人などの招へいなどイベント充実の取組みを検討します。 ● 次世代の人材育成が必要な公民館クラブと、地域において運営を支える必要がある中学校の部活動が連携することができれば、相互の課題解決につながるきっかけとなると思われることから、連携の方策を検討します。 ● 各団体の活動情報などをホームページやSNSなどの活用も含めたさまざまな方法により発信し、団体の支援に努めます。 ● 社会教育施設等の利用申請がパソコンやスマートフォン等からできるシステムの導入を検討します。

(2) 社会教育団体等への支援

⑳ 社会教育関係団体への適正な支援 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各社会教育団体に対し、財政的支援を行うとともに、事務局業務の補助などを行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度に会員数の減少により婦人会が解散するなど地域における担い手が不足している。 ● 会員数の減少などにより熊取町こども会育成連絡協議会に加入する地区子ども会数が減少するなどしており、その他の社会教育団体とともに、会員数を増やすためのきっかけづくりを行う必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティ団体のあり方について検討し、指導・助言を通じ、団体活動の活性化を行います。

㉑ スポーツ関係団体の支援・育成 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ協会・スポーツ少年団・スポーツ推進委員協議会など、スポーツ団体に対し、財政的支援を行うとともに、事務局業務の補助等を行いました。 ● 令和元年度にくまとりスポーツコミッションが設立されました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍において、各スポーツ団体とも、スポーツイベントなどが実施できるよう実施方法を見直す必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯スポーツの推進を図るため、各スポーツ団体の自主性を尊重しつつ、それぞれの活動が円滑に継続できるよう、各スポーツ団体への支援や育成に継続的に取り組みます。



IV. 地域連携の推進

学習活動の中で培われた人と人、団体と団体のつながりを地域全体まで拡げ、みんなが健康で心豊かに暮らせるようなまちづくりへとつなげていきます。

1. 各種団体等の連携機会の充実

(1) 住民団体や関係機関等との連携

③1 青少年の健全育成 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地区青少年指導員から構成される熊取町青少年指導員連絡協議会の活動を支援しました。 ● 熊取町青少年問題協議会を開催し、青少年の健全育成に関わる団体間の交流や情報交換を行いました。 ● 地域全体で青少年の成長を祝福し、新成人に成人としての自覚や責任感を促すため、成人式を挙行了しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 民法改正により18歳に成年年齢が引き下げられたことから18歳成年への自覚を促す取組みなどを啓発する必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 青少年を取り巻く社会情勢の変化や犯罪等への情報収集を行い、社会全体で青少年が犯罪に巻き込まれないよう取組みを行います。

③2 子どもの安全・安心な居場所づくり 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりの一環として、地域の各種団体等の協力のもと、町内各小学校区において、子どもたちがさまざまな体験活動を行うことができる「放課後子ども教室」を実施しました。 ● 経済的に厳しい状況におかれた家庭の子どもに対する学習支援や居場所づくり等の事業として、煉瓦館で毎週水曜日（休館日を除く）及びテスト前に各中学校で「中学校自習室」を実施しました。
-------------------------	--

新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 「放課後子ども総合プラン」の趣旨に基づき、福祉部局との連携を進めていく必要がある。 ● 利用が低調となっている「中学校自習室」の運営方法を検討する必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各協力団体の活動を支援するため、周知を行います。 ● 子どもたちの体験活動の場を充実させるため、企業のCSRの活用等や情報発信方法を拡充します。

③ 町内大学と連携したイベント等の開催 【文化芸術 運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民文化祭の開催にあたっては、町内大学と連携して、PR活動を行いました。 ● 大学の施設や人的資源を活用して、「くまとりロードレース」や子ども向けの体験イベントを町内大学と連携して行いました。 ● 健康お悩み相談コーナー及び健康教室を町内大学と連携して行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学連携の目的は、若い学生の柔軟な発想や今の流行を取り入れ、町のイベント等の実施に活かすことにあるが、現在は、一時期のイベントPRの実施にとどまっており、イベント等実施の拡充検討が必要である。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● リニューアルオープンする町民会館ホールでの公演にあたっては、町内大学をはじめ小中学校とも連携し、継続した公演やイベントの実施に向けて取組みます。 ● 町内大学と連携し、それぞれの特性を活かして、住民が主体的に参画できるスポーツ環境の推進を行うために、開催方法や内容等を検討します。

④ 住民団体・関係機関等のネットワーク・地域交流の推進 【図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民団体・関連機関・町内大学等との連携による講座・講演会を実施しました。 ● 活動団体の交流では、「ひろがる図書館の輪」と称して、交流会を開催し、各団体の活動内容の共有や今後の図書館をテーマにしたワークショップを行いました。 ● 屋外スペースの活用では、町内で公益的な活動をしている団体による「そとみせ」が行われました。
-------------------------	--

新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナの影響で、「ひろがる図書館の輪」の開催が中止となっているため、図書館を拠点に活動する団体を支援する必要がある。 ● 新型コロナの影響で「そとみせ」の利用回数が減少傾向にある。
新たな取組み (R5~9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館に関わる団体の交流の再開方法を検討し、住民の学習活動やネットワークづくりを支援します。 ● 「そとみせ」は住民団体等のPRや情報提供の場として活用されるよう、PRを行います。

(2) スポーツを通じた地域づくり

③⑤ スポーツを通じた地域交流・まちづくり 【運動・スポーツ】

5年間の取組み成果 (H30~R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度にくまとりスポーツコミッションが設立され、スポーツ団体だけでなく、商工・観光団体、旅行関係業者、教育関係機関、医療機関、行政機関等を構成団体とし、連携強化を図り、スポーツによるまちづくりの推進に努めました。 ● くまとりスポーツコミッションについては、新型コロナの影響で、予定していた「くまとり武道祭」が中止となり、代替事業として、コロナ禍でもできるスポーツイベントとして、Zoomを活用した「オンラインスポーツ教室」やPR動画を作成しました。また、「くまとり武道祭」については、令和4年度に開催されました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 各団体・サークル間や団体・サークルと地域の連携が不十分なため、スポーツを通じた地域交流・地域の課題解決に向けて、スポーツ団体・地域・大学・行政等、スポーツに関わるさまざまな団体間の連携強化を図る必要がある。
新たな取組み (R5~9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校等における部活動の地域移行に向けて、指導者が学校や地域に出向く機会を充実させることで、各地域における活動を活性化させ、地域間交流ができるような環境づくりに取り組みます。 ● 「くまとりスポーツコミッション」を中心にスポーツを活用した地域活性化及び交流人口の拡大並びに町民の健康増進及び体力向上を図り、熊取町のさらなるスポーツ振興及び地域経済の活性化に向けたスポーツによるまちづくりを推進します。

2. 各種活動を通じた地域づくり

(1) 教育コミュニティづくり

③⑥ 学校・家庭・地域の連携強化 【生涯学習】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校・家庭・地域の連携を行うため、中学校区を単位とし、「くまとり地域教育協議会」を立ち上げ、各種活動を行いました。 ● 地域の方々の協力を得て、子どもたちの登下校時などの安全・安心を見守るボランティア活動「子ども見まもり隊」を展開しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 「くまとり地域教育協議会」の活動内容等を広く周知する必要がある。 ● 子ども見まもり隊の発足から20年近く経過していることから、高齢化、人材不足が今後の課題である。 ● 地域コミュニティが希薄化しており、推進員の人材や地域ボランティア活動を実施している団体が減少している。 ● 「地域とともにある学校」への転換を図るため、有効な仕組みとなるコミュニティスクール（学校運営協議会）の設置にあたっては、コミュニティスクールの委員となる地域学校協働活動推進員を確保する必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校・家庭・地域の三者が1つになって、各地域における「教育コミュニティ」を形成し、子どもたちの教育環境の充実や安全確保に取り組みます。 ● コミュニティスクールの設置に向けて、学校などと連携し、地域学校協働活動推進員の委嘱を行います。

V. 推進体制の整備

見直し後の計画に基づき、今後5年間の生涯学習施策を展開していくには、庁内における連携促進などによる推進体制の強化を行うとともに、各施策や事業の進捗確認やその効果検証・見直しが必要です。

見直し後の計画において、関係部局の連携強化、施策や事業の評価及び見直しを位置づけることで生涯学習推進体制の強化に取り組んでいきます。

1. 行政の推進体制の強化

(1) 庁内関係部局との連携強化

③ 庁内関係部局との情報共有と情報発信 【全分野】

5年間の取り組み成果 (H30~R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「くまとり井戸端セミナー」を通じて、住民が主催する集会や学習会へ町職員が出向き、町行政の取組みについて情報提供を行いました。 ● 庁内他部局が行うイベントや展示会などの開催にあたっては、社会教育施設等のノウハウなどを活かしつつ連携をとりながら情報を発信しました。 ● 福祉部局とひまわりドーム指定管理者とが連携して、特定健診でメタボやフレイルの検診結果が出た方には、ひまわりドームで2日間、個別指導を行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査においても情報提供の充実を望む声が多く、熊取ゆうゆう大学や生涯学習関係のイベントや講座の周知方法、情報発信について、工夫する必要がある。 ● 行政が抱える課題などのPRの場として、図書館の活用を促す必要がある。
新たな取り組み (R5~9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策の推進にあたっては、庁内関係部局と連携し、情報の共有と発信を行います。 ● インスタグラム等SNSの活用を望む声があったことから、庁内関係部局と連携した施策展開を行うことで、学びの機会のみならず、にぎわい創造の機会の創出等を行います。 ● 庁内関係部局が抱える課題を、資料と共に情報提供できる場として図書館が活用できることを、PRします。

⑳ 子育てや福祉等関係部局との連携 【生涯学習 図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉部局と連携し、子育て支援や介護についての施策等を展開しました。 ● 福祉部局と食育をテーマとした情報交換の場を設けました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 部局間で連携を図るためには、情報収集、施策勉強会など新たな問題解決や情報収集のための取組みが必要である。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習の観点からの子育て支援の一環として、子どもの権利条約に関する学習機会の提供や「親学習」の機会を継続して提供していきます。 ● 電子図書館サービスのメニューに、視覚障がい者を対象としたアクセシブルライブラリーがあるため、関係部局と連携しながら利用を促進します。

(2) 職員の能力向上

㉑ 職員の能力・専門性の向上 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の職務・職階に即した研修を実施しました。 ● 職員のスキルアップのため、課内研修を実施することに加え、大阪府等が実施する研修会等に参加しました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者や障がい者への対応について、継続的な研修が必要である。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 最新の課題や住民ニーズに関する知識取得・意見交換や討議の場を設けるなど、研修メニューの充実を図り、職員のスキルアップに努めます。

2. 事業の評価

(1) 教育委員会活動の点検・評価

④ 教育委員会活動の点検・評価の実施と公表 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各施策や事業の実施状況や成果の確認のため、教育委員会活動の点検・評価を年1回実施しました。 ● 各施設や事業等の取組内容を評価し、今後の取組みに活かしました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 本町における教育の充実に向けて、点検・評価の結果をさらに活用し、PDCAサイクルにより継続的に施策や事業を展開し、改善していく必要がある。
今後の取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各施策や事業について、教育委員会活動の点検・評価を通じて、その取組みの効果測定や展開方針の確認を行います。 ● 点検・評価で上がってきた意見などを実現できるよう、修正を加えながら施策に反映します。

(2) 社会教育委員会議

④ 社会教育委員会議の運営 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 年2回程度の会議を開催し、本町における各年度の生涯学習の事業計画及び事業報告や議論を行いました。 ● 令和4年度において、生涯学習推進計画の中間見直し等に係る議論を行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館・町民会館の整備後の運営方法等、単に箱モノとしての施設整備になることのないよう、継続した議論等を行っていく必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育委員会議において、本計画の進捗状況の確認を行うとともに、各施策や事業の効果測定や展開方針の確認を行います。 ● 毎年度行う社会教育事業報告において、各年度における生涯学習推進計画の進捗状況等の評価・確認を行い、今後の施策に反映し、次年度の社会教育事業計画に反映します。

(3) 図書館協議会

④2 図書館協議会の活用 【図書館】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館が抱える課題について議論し、図書館サービスの改善・向上につなげました。 ● 指定管理者制度導入の是非の検討を含めた図書館の管理運営の在り方について諮問を行い、その答申から、今後の管理運営を「直営で行う」という結論になりました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館が生涯学習活動の拠点として、また社会的な課題に対応した運営ができるよう、継続して議論を行う必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館が生涯学習活動の拠点として機能するよう、図書館サービスの運営に関して継続して議論を行います。

3. 計画の定期的見直し

(1) 次期計画の策定

④3 第5次生涯学習推進計画の策定 【全分野】

5年間の取組み成果 (H30～R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 策定から5年経過した後、策定後の社会情勢の変化等を見据え、見直し（改訂）を行いました。
新たな課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画期間が10年間と長期計画のため、社会情勢の変化等に対応する必要がある。 ● 住民ニーズが多様化していることから、最新のニーズを調査したうえで見直しを行う必要がある。
新たな取組み (R5～9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 各施策や事業の進捗状況や課題・住民ニーズの再確認を行い、次期計画を策定します。 ● 第4次計画の取り組み内容を振り返るとともに、社会教育委員会を中心とした各審議会や関係機関等での意見等を踏まえ、策定します。

発行：熊取町教育委員会

編集：熊取町教育委員会事務局 生涯学習推進課

〒590-0415 熊取町五門西1丁目10番1号

TEL：072-453-0391 FAX：072-453-0878

E-mail：shougaigakushuu-suishin@town.kumatori.lg.jp

熊取町立熊取図書館

〒590-0451 熊取町野田4丁目2714番地の1

TEL 072-451-2828 FAX 072-452-7366

E-mail：toshokan@town.kumatori.lg.jp